

TV 報道検証【報道特集】 報告書

|  |          |                 |
|--|----------|-----------------|
| テレビ局：TBS   | 番組名：報道特集 | 放送日：2020年10月10日 |
| 出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙<br>與猶美穂（気象予報士）  |          |                 |
| 検証テーマ：オープニング、アメリカ大統領選挙、加藤官房長官が沖縄訪問、<br>河野行革大臣がNPO法人訪問、朝鮮労働党創建50周年セレモニー<br>【特集】日本学術会議任命見送りの行方は？   |          |                 |
| 報道トピック一覧<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・三宅村と御蔵島村で大雨特別警報</li> <li>・オープニング</li> <li>・台風14号</li> <li>・アメリカ大統領選挙</li> <li>・加藤官房長官が沖縄訪問</li> <li>・河野行革大臣がNPO法人訪問</li> <li>・朝鮮労働党創建75年</li> <li>・大阪万博50周年記念セレモニー</li> <li>・台風がGoToにも影響</li> <li>・【特集】日本学術会議任命見送りの行方は？</li> <li>・【特集】知られざる北朝鮮新型コロナの実情</li> <li>・スポーツ報道</li> </ul>   |          |                 |
| 放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・オープニング：結論→特に問題なし<br/>                     番組の冒頭で金平キャスターが「ええ、総合的俯瞰的に申し上げますと、国家がすべてを支配する科学は滅びます。ヒトラーのナチス政権下でユダヤ人学者は有無を言わずに排斥されました。あのアインシュタインもその一人です。日本学術会議をめぐる政府の態度、少しは総合的俯瞰的にそして謙虚に歴史を学ばれてはいかがでしょうか。」とコメントしていた。<br/>                     このシーンに当てられた時間は25秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。</li> <li>・アメリカ大統領選挙：結論→特に問題なし<br/>                     アメリカの大統領選挙について膳場キャスターが「アメリカのトランプ大統領が新型コロナウイルスへの感染が明らかになってから初めて、10日にホワイトハウスで集会を開くことがわかりました。複数のアメリカメディアによりますと大統領選挙を控えたトランプ大統領は現地時間の10日、ホワイトハウスで集会を開き、演説を行います。演説のテーマは法と秩序で、トランプ氏が集会に参加するのは新型コロナに感染し退院してから初めてのことで、トランプ氏は繰り返し体調の回復を強調されていますが、未だに陰性なのかどうか明らかにされておらず集会の開催には批判の声も上がっています、一方15日に予定されていた民主党のバイデン候補とのテレビ討論会は主催団体が中止を発表し、次回は22日の行うとしています。こうした中、大統領選挙を前にツイッターは投稿を転載するリツイート機能を制限する、と発表しました。制限は今月20日から全世界を対象に行われ投稿を転載する場合は自らのコメントを書き加える引用ツイートの画面が表示されるようになります、これ</li> </ul> |          |                 |

は偽情報を拡散させないための対策の一環で Twitter は『利用者がなぜ投稿を拡散するのか考えることを望む』とコメントしています。」と伝えていた。

このトピックに当てられた時間は 88 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・加藤官房長官が沖縄訪問：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「加藤官房長官は就任後、初めて沖縄県を訪れ、アメリカ軍普天間基地の辺野古移設に向けた工事を着実に進める考えを改めて示しました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"加藤勝信（官房長官）「一日も早く普天間飛行場の全面返還を実現するという考えには変わりなく、そのためにも辺野古移設に向けたアプローチを着実に進めていく必要がある、というふうに。」

ナレ「加藤官房長官は主な米軍基地を上空から視察し、『普天間基地について固定化は避けなければならない、と改めて感じた』と強調しました。加藤官房長官はその後普天間基地のある宜野湾市で市長らと意見を交わしました。また先程から沖縄県の玉城知事を訪問し、基地問題などについて会談を行っています。」 "

このトピックについて当てられた時間は 55 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・河野行革大臣が NPO 法人訪問：結論→特に問題なし

ナレーションによって「河野行政改革担当大臣は生活困窮者を支援している NPO 団体を訪れ、実際に食料品などの配布を行いました。団体などによると公的機関による相談窓口が支援の内容ごとに異なりたらい回しになる人もいるということで、河野大臣は様々な縦割の状況が出ている、と強調し、将来的には手続が一箇所で行えるワンストップ化を目指して行きたいと訴えました。」とのことが伝えられた。

このトピックに当てられた時間は 33 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・朝鮮労働党創建 50 周年セレモニー：結論→特に問題なし

膳場キャスターによって「北朝鮮は今日、朝鮮労働党創建 75 年記念日を迎えました。軍事パレードが行われたかどうかはあきらかになっておりませんが、韓国軍はパレードの形跡を捉えたと発表しました。今日、朝鮮労働党創建 75 年の記念日を迎えた北朝鮮、国営メディアは今の所軍事パレードについては報じていません、こうした中、韓国軍合同参謀本部は今日午後、未明に平壤で大規模な装備や人員を動員した軍事パレードを実施した形跡を捉えたと発表、韓国政府関係者は午前 0 時過ぎから三時間程度実施されたようだ、としています、金正恩党委員長は去年の年末に世界は遠からず新しい戦略兵器を目撃することになる、と予告していて軍事パレードに新型の ICBM 大陸間弾道ミサイルなどの新兵器が登場するかどうかや 11 月のアメリカ大統領選を前に金党委員長が体外的なメッセージを打ち出すかどうか注目されています。」とのことが伝えられた。

このトピックに当てられた時間は 68 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】日本学術会議任命見送りの行方は？：結論→問題あり

膳場キャスターの「特集は日本学術会議が推薦した 6 人の学者の任命を、政府が拒否した問題です。学問の自由に対する侵害として、国内外から批判の声があがっています。」とのコメント、金平キャスターの「学問の独立性を守る意味とは？日本学術会議の生い立ちから検証します。」とのコメントを受けて以下に朱記したような特集の VTR が取り上げられていた。

日下部「首相官邸前です。政府による日本学術会議の会員の子に介入したことに対する抗議の集会ってのが開か

れているところですけども、手に手にプラカードを持った人たちが集まってきてますけれども、」  
ナレ「おととい、冷たい雨の中、大学生の呼びかけで、多くの若者らが官邸前で抗議の声を上げた。」  
デモ隊「自由を守れ、学問守れ」

ナレ「日本学術会議が推薦した学者 6 人の任命が、拒否された問題。そのうちの一人、憲法学者の小沢隆一教授はこう訴えた。」

小沢隆一（東京慈恵医大教授）「学生の皆さん、本当にあの、未来は、皆さんのものです。で、その未来をですね、本当に暗くするような、そういうことにですね、巻き込まれてしまいました。今回の決定、これに対しては、憲法そのものを踏みにじる暴挙として、私は決して許せません。」

一橋大学（博士課程）男性「やっぱり看過できる問題ではないというふうに思って、今日は参加しました。まだ就任して間もない時期に、もうすでにこういう任命拒否と、学問の自由を脅かしかねないようなところに手をつけてくるというのは、本当に恐ろしいことだなという風には思いますね。」

ナレ「中にはこんな学生も」

大学院生の男性「僕は院生なので、ちょっともしかしたら、違う種類の切実さかもしれませんが、要するにまー、公的支援とか受けないと、研究って今全然できないんですよね。生活が成り立たない。研究者になる前にアルバイトとか借金で潰れちゃうということがあるので、そうするとじゃあ研究者の道をあきらめないためには、いわゆる無難な研究をしておくか、ていうことになりますよね。」

金平「睨まれない研究？」

男性「(頷く)」

ナレ「任命拒否の理由について政府側の説明は」

菅総理「ですから、総合的、俯瞰的、活動を確保する観点から、今回の任命について判断をしたということです。」

内閣府大塚幸寛官房長「総合的俯瞰的な観点から、」

加藤勝信官房長官「総合的俯瞰的という視点が入ったのは、」

ナレ「総合的・俯瞰的という言葉を繰り返すのみ。菅総理の母校や学者出身の知事、海外の科学誌からは」

米科学誌サイエンス（翻訳）「日本の新総理、学術会議との戦いを選ぶ」

法政大学総長ホームページのコメント「この任命拒否は学問の自由に反する行為であり、最終的には国民の利益を損なうものです。」

静岡県知事 川勝平太氏（経済学者）「菅義偉という人物の教養のレベルが図らずも、露見したということじゃないかと思います。汚点ですね。なるべく汚点は早くふいたほうがいい。」

ナレ「政府は今、日本学術会議に対し、人事への介入だけでなく、組織のあり方そのものを問う姿勢を見せている。」

(CM)

男性「我々がまあ、つまずいたって言うのは 16 年の夏からですね。」

ナレ「かつて日本学術会議の会長を務めていた東京大学の大西隆名誉教授。2016 年の夏頃、学術会議は欠員となった 3 人の会員を補充するため、選考の途中で有力候補に順位をつけて、担当者が官邸に説明に行った。そこで大西隆（東大名誉教授日本学術会議元会長）「二つのポストについて、我々が一番とつけた人ではなくて、2 番の方がいいのではないかという、あの、レスポンスが返ってきたと。」

金平「大西さん、そのことに関しては、どういう態度を示されましたか？」

大西氏「だからその、もちろん理由は何ですかって、聞いた、聞きますよね。理由は示されないと。」

ナレ「この時、学術会議は、官邸の要望には応じず、補充を断念することとなった。また別の会員選考の際には、

官邸からこんなこと言われたという。」

大西氏「特に女性の、女性の比率を上げるようにしてくださいと。すべて 決着したこういう名簿を持ってきた時に、『今回はわかりましたけれども、もうちょっと増えないんですか』と、言うことで・・・」

ナレ「今回菅総理 は会員選考のプロセスについても疑問を呈している。」

菅総理「推薦委員会などの仕組みがあるものの、現状では事実上は現在の会員が自分の後任を指名することも可能な仕組み。となっている。」

ナレ「大西氏は、 こう反論する。」

大西氏「あたかも私が、自分の弟子を後継者として選んでいるようなことが行われているように、総理は表現していますけれども、込み入った選考過程を経て選んできているんですね。」

ナレ「これは、学術会議が選考の際に使用する推薦書のシートだ。会員たちは候補者の研究内容や、学術的業績の他に、推薦理由を記入する欄がある。」

大西氏「だから、ここが業績リスト。たくさんある人が多いので、五つまで代表的なのを、論文なら論文、特許なら特許、書けということですよね。」

金平「かなり詳しいですね。これ。」

大西氏「えー何百人か、あるいは 1000 人くらいの推薦が、会員に対してあるんですね。選考委員会と、その下に選考分科会という、まあ、分野別の委員会というのができて、その選考委員会と選考分科会で、それを、まあ、精査して行って絞り込んで行くという、その 1000 人なら 1000 人の名簿から出発して、105 人まで絞っていくと。」

金平「今回の学術会議の会員のまあいわゆる任命拒否についてですね、今現在、大西さんは何を一体訴えたいですか？」

大西氏「あの一まず遺憾で、理由を明らかにするべきだと、いうことですね。」

ナレ「日本学術会議法では、『優れた研究、または、業績がある科学者のうちから、会員の候補者を選考し、内閣総理大臣に推薦するものとする』と、定めている。」

大西氏「基準が明確なだけに、そこをはっきり示してもらわないと、基準が明確というよりも、それは、法律にちゃんと書いてあるわけですから、法律に基づいて、いわばやってきたわけで、それが認められないということになると、ですね、じゃあ今度は法律に書いてあることをやっちゃいけないのかという話に、まあ、なりかねないので、」

大西氏「理由を明らかにしないということは、いわば、問答無用ということですから、」

大西氏「権力者がやれば、圧政という事になりますよね。そういうことはあってはいけないと思いますね。」

ナレ「自民党からは、こんな動きも出ている。」

下村博文（自民党政調会長）「学術会議としての活動が見えていない」

下村氏「果たすべき役割がどの程度果たされているのか、いないのか、そういうことも含めた議論をしていく必要があると思います。」

ナレ「今週水曜、下村政調会長は、日本学術会議の在り方を見直すプロジェクトチームを、来週にも立ち上げる考えを明らかにした。」

ナレ「一方、学術会議元会長のロドリゲス東大名誉教授は、強く反論した。」

日本学術会議元会長 広渡清吾東大名誉教授「何もやってないんじゃないかっていうのは聞けません。」

広渡氏「下村さん。日本学術会議のホームページをずうーと第一期からご覧ください。どんなにたくさんの提案が出ているか。これは、政府がこの社会・政治を良くしようとするために、採用できる提案がたくさんあると思

います。」

ナレ「日本学術会議が、担う重要な役割は、日本と世界に貢献できる研究を政府に提言することだ。学術会議の後ろ盾を得て、実を結んだ研究も数多くある。」

膳場「長崎大学のキャンパスに來ています。こちらで工事中なのは、病原体を厳重に封じ込めることができる設備を持つ、BSL-4 施設です。これができるすと、最先端の感染症研究ができると期待されています。」

ナレ「BSL とは、バイオセーフティレベル (Bio Safety Level) の略。病原体の研究における危険度を 4 段階で示したもので、最も危険度の高いものが BSL-4 だ。」

ナレ「レベルが一つ低い、BSL-3 の施設は、長崎大学をはじめ、多くの大学で設置されている。しかし 6 年前、エボラウイルスが西アフリカで大流行し、日本でも感染が疑われるケースが数件発生。エボラウイルスは BSL-4 に分類されるため、日本では対応できる施設がなく、十分な検査すらできなかった。」

安田二郎 (長崎大学教授) 「我々の感覚からすると、BSL-4 って必須なんですよ。ないことがおかしいという状況で、まあ、感染症、我々はどのバイオセーフティレベルのどの病原体が流行するかなんて、我々コントロールできないわけですよ。」

膳場「そうですね」

安田教授「で、その時に BSL-4 施設がないからそういう研究ができませんでは、もうそこで、もう、負けてしまうんですよ。」

膳場「戦えないですよ。そうすると」

安田教授「戦えないんですよ。はい。」

ナレ「BSL-4 施設の必要性を訴えてきた安田二郎教授。長崎大学は 2010 年から、プロジェクトを立ち上げたものの、資金面などで行き詰ったという。」

安田教授「100 億とか、何十億っていう予算は、大学単体で持てるようなものではないですね。何らかの後ろ盾、大きな後ろ盾がないと、あの一国も動いてくれないと。」

ナレ「そこで、安田教授は、2013 年に、学術会議へ、BSL-4 施設の建設プランを提出した。学術会議では、さまざまな分野の研究プロジェクトを公募し、会員らがその学術的価値を評価する。そこから重点的に取り組むべき研究を選び、国に提言している。」

ナレ「そして 2014 年学術会議が BSL-4 施設を重要プロジェクトのリストに加えたことで、国の予算を得て、建設が始まったのだ。来年完成する予定だ。」

ナレ「新型コロナウイルスの感染拡大を受け、今後の感染症対策の拠点としての存在価値が増している。」

膳場「この BSL-4 の施設ができるのにあたっては、これ、日本学術会議の存在というのはとても・・・」

安田教授「非常に大きいですね。あの提言が無かったら、なかなかやっぱり大きな一歩を、つながらなかったと思いますね。」

安田教授「科学研究というのは、裾野を広く保って行う必要があるんですけども、やはり学術会議もですね、そういった広い分野にそういった委員の方がおられる事によって、いろんな研究が、あの、進められるんですよ。重点的にどっかだけ、どっかの研究分野だけのじゃなくて、ひろく、まあ、研究が進められるという意味でも重要だと思いますね。」

ナレ「日本学術会議は、3 年前、政府の進める政策に異論を唱えた。」

会議参加者「世界各国の科学者から、良識ある人々から、日本の国家自体が、不信感を持たれる。」

ナレ「2015 年に始まった防衛省の研究助成制度。大学などの研究機関が対象だ。自衛隊の武器から戦車、戦闘機まで、あらゆる防衛装備につながる研究に助成金がでる。基礎研究全般への予算が削られる中、防衛相の助

成制度の予算は、当初の 3 億円から、3 年で、110 億円にまで大幅に増加した。こうした動きに、『学問が戦争に加担することになる』として、一部の大学で、応募を禁止するなど波紋が広がった。その是非を検討する役割を担ったのが、学術会議だ。」

会議参加者「教育している大学生たちも巻き込む」

会議参加者「自衛も含めて、そういう研究をやらないって場合に誰が、その研究をするのか。」

会議参加者女性「戦争に向かわないための科学とはどうあるべきか、いうことを考えていて頂きたい」

ナレ「議論の末、学術会議は、軍事的安全保障研究に声明をまとめ、公表した」

声明「政府による研究への介入が著しく、問題が多い。」

ナレ「こうした声明が生まれた背景には、70 年前の創設時から、学術会議が守り抜いてきた理念がある。」

本「戦争を目的とする科学の研究には、今後絶対に従わないという我々の固い決意を表明する。」

ナレ「そこに込められていたのが、ある科学者の強い思いだ。」

ナレ「これは70 年前、創設間もない日本学術会議が出した軍事研究との決別宣言だ。」

宣言 (ナレ)「戦争を目的とする科学の研究には、今後絶対に従わないという我々の固い決意を表明する。」

ナレ「この宣言には、ある科学者の思いが込められている。学術会議創設メンバーの仁科芳雄氏。日本の原子物理学の父と呼ばれる人物だ。門下生には、ノーベル物理学賞を受賞した湯川英樹氏や、朝永振一郎氏がいる。」

日下部「えーここが理化学研究所があった場所で、日本学術会議のですね、設立に奔走した仁科博士ですけども、この理化学研究所で軍の要請によって、原子力爆弾に関する研究を行っていたと、ということなんです。」

ナレ「戦時中、日本も行っていた原子爆弾の研究。それを仁科氏は軍によって担わされていた。学術会議の元会員で、仁科氏に関する著書がある江沢洋氏に聞いた。」

日下部「軍に無理やりやらされていたんですか？」

江沢洋 (学習院大学名誉教授)「無理矢理なんでしょうね。やってくれと言われてノーと言えないですからね。彼は。日本の中の物理学の頂上にいるんだということになっているわけですから。『できないんですよ』と、言えないですよ。」

ナレ「ところが、弟子の朝永振一郎氏には、全く別の研究をさせていた。」

江沢氏「朝永先生に、お前なんか原子爆弾なんか手を出す必要はないって行ったんだそうですよ。『戦争のことなんか考えなくていいよ』と『もっと物理のことを考えろ』と言いたかったぐらいじゃないかと思いますね。」

日下部「軍に代表されるようなね、政府からの介入ですよ。これについて、仁科博士はどう思ってたんでしょうか？」

江沢氏「原子爆弾っていうのがある世界での戦争っていうのが、どんなに悲惨なものかと。いうこと彼はよく分かってたわけですね。もし万一原子爆弾で戦争が起こったら、それこそ人類が滅亡してしまうと。」

ナレ「その原爆は、日本に落とされることとなった。調査のため、広島と長崎を訪れた仁科氏は、惨状を目の当たりにし、ある考えに行きついた。」

仁科氏 (ナレ)「科学者はとかく道具として使われがちであった。科学者の組合を組織して、十分の論議を尽くし、まとまった意見を政府に実行させる。」

ナレ「終戦から 4 年、学者が政府に利用されず、日本の平和的復興のため、政策提言できるよう作られたのが、日本学術会議だ。仁科氏は、初代副会長に就任した。」

ナレ「その後、学術会議は、政府にさまざまな提言や勧告を出していく。」

ナレ「1963 年、アメリカから原子力潜水艦の寄港要請があった時には、潜水艦の安全性を確認するよう、主張した。」

ナレ「公文書の保存と公開のため、国立公文書館が設置されたのも、学術会議の勧告によるものだ。」

ナレ「学問の自由の元、時には政府に対峙してきた学術会議だが、江沢氏は会員時代に別の会員から、こう釘をさされたこともあるという。」

江沢氏「そういう人（政府よりの人）がいうにですね、『学者はですね、その戦争がどうのこうのなんて、そんなことは言っちゃいけない』んだと、言うべきじゃなくて、『もっと黙って政府の言う通り、したがってやって、やらなけきゃいけないんだと。』」

日下部「学問の自由とか、学問の独立ってどう考えますか？」

江沢氏「絶対捨て去ってはいけないものだと、思いますね。もともと自由が無ければ、物理学にしろ、何学にしろ、研究なんて成り立たないですよ。」

(CM)

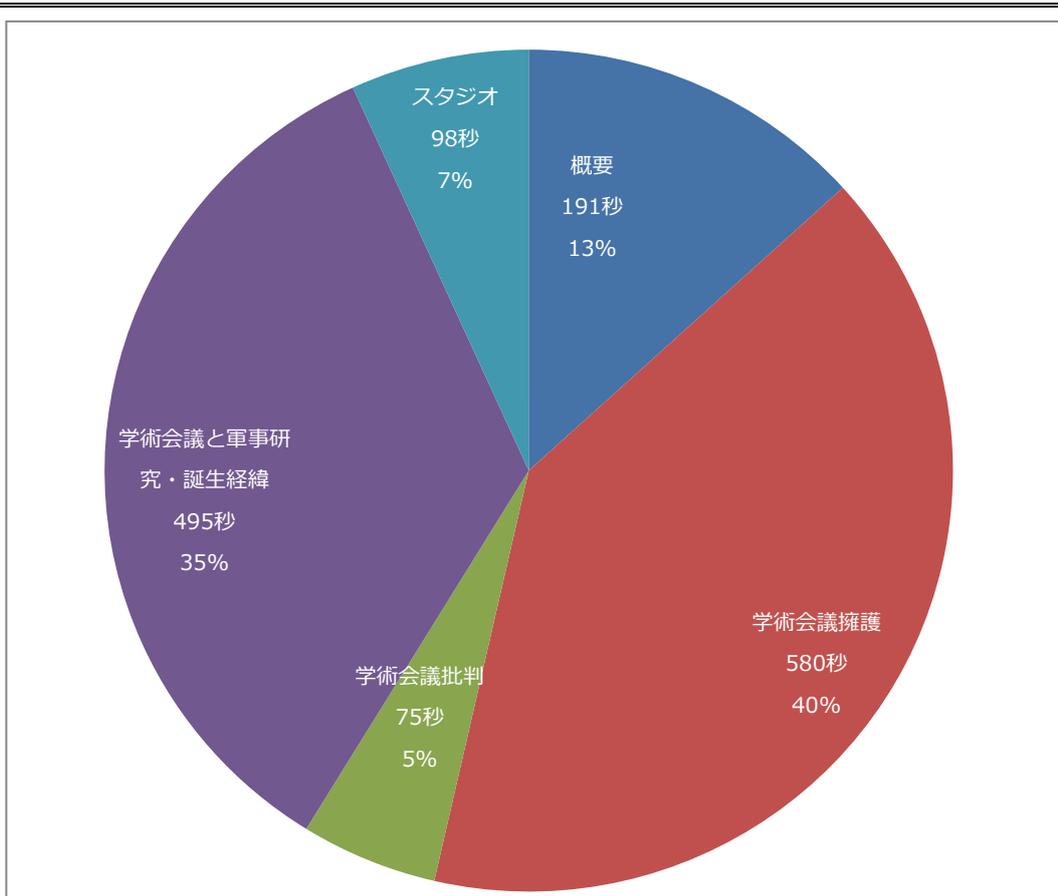
特集を受けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられていた。

膳場「あのー長崎大学の安田教授に伺いましたらね、やはりあの専門性の高い科学研究を理解して、政策提言していくためには、業績と信頼のある専門家集団というのは、不可欠なんですって。で、あの、世界を見渡しましても、各国に科学アカデミーってありますからね。で、そのうえでその集団に、さまざまな立場や、さまざまな分野の専門家がいる。つまりあの、研究者の多様性が確保されていることってというのは、長い目で見たとき、国の活力に繋がって行くことだと、思うんですけれどね。」

金平「あのね、総合的・俯瞰的ではないんですけども、これちょっと見ていただきたいんですけど、今回の野党ヒアリングで、内閣府が出してきたもともとはこれ、日本学術会議がね出した会員の候補者名簿ですよ。これ、消された人、今回、選ばれなかった人、6人分消されてるんですよ。こうやって。黒塗りですね。これ大変失礼な話で、プライバシーとかそういう事以前にね。こういうところから改めなきゃダメなんだというふうに僕は思いますけどね。」

日下部「政権をきちんと批判できる学者や知識人がいるって事はですね、専制国家ですとか、独裁国家に対する優位性を示すものでね、私たちは誇らなけゃいけないわけですよ。あの、中国や北朝鮮では、政権と違うことを言うだけでですね、何の説明もないまま、社会から抹殺されることも珍しくないわけで、日本が開かれた社会であるんでは、開かれた社会であるためにはですね、やはり、なぜ6人を外したか、誰にでも分かる言葉で説明しなけゃいけないと思うんですよ。」

この特集に当てられた時間は 1439 秒で、時間配分及び比率は以下の通りであった。



VTR の内容は学術会議擁護論に偏ったものであった。

視聴していた印象では学術会議が必要な理由のうちのいくつかは「それは各府省庁でできるのでは？」と思えるようなものも少なくなかったが、そうしたものを学術会議擁護論として取り上げる一方で、批判的検証は行われていなかった。

VTR 中の大学院生の男性「僕は院生なので、ちょっともしかしたら、違う種類の切実さかもしれませんが、要するにまー、公的支援とか受けないと、研究って今全然できないんですよ。生活が成り立たない。研究者になる前にアルバイトとか借金で潰れちゃうということがあるので、そうするとじゃあ研究者の道をあきらめないためには、いわゆる無難な研究をしておくか、ということになりますよね。」というコメントが印象的であったが、「学者」というのは職業・生業の一つであり、それによって生計を立てている、人々と言えらるだろう。

今回の学術会議は税金が使われていることであるにも関わらず、その税金を使う側、すなわちタックスイーターあるいは潜在的なタックスイーターの意見ばかりを取り上げ、納税者の意見というのがとても軽視された作りとなっており、放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」および同四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」に照らして問題があるといえる。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨  
特になし

検証者所感

・オープニング

金平キャスターが「ええ、総合的俯瞰的に申し上げますと、国家がすべてを支配する科学は滅びます。ヒトラ

一のナチス政権下でユダヤ人学者は有無を言わず排斥されました。あのアインシュタインもその一人です。日本学術会議をめぐる政府の態度、少しは総合的俯瞰的にそして謙虚に歴史を学ばれてはいかがでしょうか。」とコメントしていた。単に学術会議の任命を拒否しただけで、日本国内での生活はもちろん、教職についても剥奪されることのない日本と、そもそも学術云々以前にユダヤ人という理由でもってナチスドイツ内での生活すら認められなかったから亡命したアインシュタインの例を並べるのは、いささか不適當ではなかろうか。金平キャスターこそ歴史を謙虚に学ぶ必要があるだろう。

とはいえ、金平キャスターのいう「国家がすべてを支配する科学は滅ぶ」というのは同感である。しかし、そう考えると、学術会議という国家・政府の機関という存在自体が国家の支配の片棒を担ぐものとなつてはしないだろうか、という疑問が浮上する。国家による科学の支配を逃れるには、国家の他にも資金提供者を見つけることができるような枠組が必要であり、むしろ、国家への依存度を高める公金注入こそ厳に慎むべきことだと言えはしないだろうか。

・【特集】日本学術会議任命見送りの行方は？

今回の問題について、学者というのは極めて重大な利害関係を持つ人々と言える。今回取り上げられていた学者を見るだけでも、彼らは税金を支払う側の意識ではなく、使う側の意識である。そういう人たちに意見を聞けば「予算を削るべきではない」、「学術会議を残すべきだ」というのは当然であろう。

しかし、税金を納める側の意見はどうなのだろうか。

いずれにせよ、こうした問題で税金を使う側の意見のみを垂れ流す、というのはいかななものなのだろうか。